

# 神奈川大学

T221-8624  
 神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-26-1  
 入試センター  
 TEL 045-461-5857  
<https://www.kanagawa-u.ac.jp/>

190200年に「質実剛健」の積極進取「中正堅実」という建学の精神のもと、米田吉盛によって設立された横浜学院を前身とする神奈川大学。世界とつながる日本の玄関口・横浜で、外国語学部英語英文学科、スペイン語学科を先駆けて設置するなど、現代のグローバル教育に通ずる確かな礎が築かれました。

そして今春、新設の国際日本学部を含むグローバル系3学部の拠点となる「みなとみらいキャンパス」が開始。2022年4月には建築学部の開設、23年4月には理学部の横浜キャンパスへの移転も予定されています。教育・研究体制から学修環境まで、神奈川大学は28年の創立100周年に向けて大きく進化し続けています。



兼子良夫 学長

## 「人をつくり、未来をつくる」 “成長支援第一主義”を体現する グローバル都市・横浜の総合大学

### 2学系5コースからなる「建築学部」が誕生

神奈川大学は2022年4月、「建築学部」を開設。文系にも理系にも開かれた2つの学系、建築学系と都市生活学系を設けています。建築を単に工学分野としてではなく、総合学術分野として学ぶことを重視し、建物技法のみならず、国内外の建物をはじめ建築の歴史や芸術的な観点からも学修。「建築には人間の生き方や考え方が反映される」というスタンスで建築を学びます。授業ではフィールドワークなども活用し、地域とつながりのある建物の探究や、学生が地域住民や自治体職員、企業担当者と協働でプロジェクトを進めます。

「現行の工学部建築学科でも、鉄道会社や自治体などと協働でまちづくりプロジェクトを進めており、学生が大いに活躍してくれています。今回の学部開設を機に実務家の教員も増員し、新たな連携も生まれますので、『建築+α』で地域の課題にアプローチするチャンスは大きく広がるでしょう」と兼子良夫学長。

「地域の課題解決では、建築だけでなく法律や経済、経営の知見が求められるケースもあります。総合大

学としてのメリットも最大限に活かしていく方針です。もはや学部単体で課題解決策を探る時代ではなく、本学の総合力を発揮する拠点として、みなとみらいキャンパスもフルに活用していく考えです」と展望を語っています。

### 国内外との社会連携拠点 みなとみらいキャンパス

今春始動したみなとみらいキャンパスは、街そのものを一つのキャンパスとして学ぶことが可能です。社会連携センターが学外機関との活発な連携を推進し、学生も周辺企業や地方自治体、地域住民などと連携しながら、参加型・体験型学習を進めることができます。例えば、みなとみらい地区を管轄する一般社団法人横浜みなとみらい21と包括連携協定を結び、イノベーション活動の拠点としてキャンパス内にブースを設置。ほかにも多様な地元企業やグローバル企業と個別に連携し、神奈川県や横浜市とも包括連携協定を締結しています。産官学での連携・協働による多彩な教育・研究活動が期待されています。

「都心からアクセスしやすい立地上のメリットも最大限に活かしながら、国際都市・横浜の中でも先進的なエリアを拠点に多様な社会連携・地域連携を進め、未来志向のグローバル人材を育成します」（兼子学長）

### 最大880万円を給付。返還不要の奨学金で4年間学ぶ。

#### 向学心あふれる学生を支援する給費生制度

給費生制度は1933年から実施している本学独自の伝統ある奨学金制度です。広く全国から優秀な人材を募り、その才能を育成することを目的としています。試験は例年12月下旬に実施しています。一般入試と同様の3科目型で行われ、推薦書不要、併願可能です。給費生として入学すると返還不要の奨学金(4年間で最大880万円)を給付します。

- ◎試験日: 12月19日(日)
- ◎合格発表日: 1月12日(水)  
 ※インターネット出願、郵送消印有効
- ◎昨年度参考>  
 志願者 3,399人  
 給費生合格者 109人  
 一般入試免除合格者 833人

#### 給費生試験【全学部全学科】

- 4年間で最大880万円を給付※  
 ・入学金相当額を入学初年度に給付法・経済・人間科学部は年額100万円、経営・外国語・国際日本学部は年額110万円、理・工学部は年額135万円、建築学部は年額145万円を原則4年間給付※  
 ・自宅外通学者には年間70万円の生活援助金を原則4年間給付※ ※毎年継続審査あり
- 全国22会場で実施!  
 横浜(本学)・札幌・秋田・仙台・郡山・新潟・富山・長野・松本・甲府・高崎・水戸・さいたま・千葉・沼津・静岡・名古屋・大阪・広島・松山・福岡・那覇
- 2種類の合格  
 <給費生合格><一般入試免除合格>  
 給費生として採用されなかった場合でも、一般入試合格者と同等もしくはそれ以上の学力を有すると認められた受験生は、一般入試を免除して入学が許可されます。
- 給費生対象の海外研修を実施(1年次、希望者)

### 社会への貢献を重視しSDGsにコミットする

神奈川大学の特徴的な取り組みの一つが、2010年に策定した「SDGsへの神奈川大学のコミットメント」です。神奈川大学は開学間もない1933年から、横浜の勤労青年に対して学びの機会を提供するために、奨学金「給費生制度」(上のコラム参照)を設け、「新しい未来・社会にいかんとして貢献していくか」を説いてきました。社会に貢献できる「人づくり」と「未来づくり」を重んじた創立の意義は、SDGsに求められる意識と親和性が高いのです。

#### (1) 建築学部

工学のみならず、社会科学や人文科学など幅広い分野の知識を取り込み、柔軟で幅広い観点から解決策を提案できる建築専門家の養成を目指し、多様で高度な専門性が身につく「建築学系」「都市生活学系」の2学系を設置。2年次後学期からは「構造」「環境」「デザイン」「住生活創造」「まち再生」の5コースに分かれる。コースを横断して学べるプログラム制も導入し、専門性を高めていく。

入試では、理系科目はもちろん「英語」「国語」「地歴・公民」での文系型試験方式の選択も可能。

#### (2) みなとみらいキャンパス

グローバル都市みなとみらい21地区初の総合大学キャンパスとして誕生し、コンセプトは「『国際・日本』の融合した未来『創造・交流』キャンパス」。経営学部・外国語学部・国際日本学部のグローバル系3学部の拠点として、約5000人の学生が「みなとみらい」の街全体をキャンパスとして学ぶ。

地上21階建てで高さは約100m。1~3階はグローバルラウンジや図書館などあらゆる人々が自由に利用できるソーシャルcommonsとして位置づけられ、4~10階は教育ゾーン、講義室や学生ラウンジ、ラーニングcommonsなどを設置。11~20階は研究室・研究所やゼミ室などが集まる研究ゾーン、最上階の21階にはトップラウンジも設置され、あらゆる「人」が集い、地域や社会とつながる機能をもつ空間となっている。

#### (3) SDGsへの神奈川大学のコミットメント

2019年4月には、「SDGsへの神奈川大学のコミットメント」を公表。ダイバーシティの推進をはじめとして、SDGsの達成に向けたさまざまな研究・教育を推進。2021年4月には、イギリスのタイムズ・ハイヤー・エデュケーション (THE) から、大学の社会貢献度をSDGsの枠組みで可視化する「THE Impact Rankings 2021」が発表され、神奈川大学は3年連続で指標となる全項目でランキングしている。

### コロナ禍でも発揮された学生本位の学校運営

神奈川大学は、成長支援第一主義を掲げ、給費生制度をはじめ、学生本位の施策を数多く講じています。コロナ禍では対面授業を望む声に学生の熱量を感じたといいますが、基礎疾患のある学生をはじめ、感染に不安のある学生への配慮も欠かせません。神奈川大学では学生一人ひとりのメンタルヘルスを最重要課題として、臨機応変な対応を進めています。

こうした中、具体的な授業運営方法を模索する「遠隔授業対策本部」も設置。対面授業に集まった学生数

をリアルタイムで確認し、密になると判断した場合には速やかに広い教室に変更するなど、教職員が一枚岩となる運営を継続しています。

「オンライン授業と対面授業の二者択一ではなく、多様な授業形態があつて然るべきです。海外の大学との連携も含め、オンライン授業のどこに有用性を認め、活用するかが肝心です。『遠隔授業対策本部』会議を数十回にわたって開催してきたのも、SDGsで掲げられている『誰一人取り残さない』という目標を、一人ひとりの学生に実現するためです。対策本部では、学内外のあらゆる情報を共有・検証し、本学での感染予防策のノウハウとして蓄積してきました。みなとみらいキャンパスだけでなく、ウイズ・アフターコロナ時代を見据えたハード面の整備も進めています。ますます学生の選択肢が広がり、自由度が高まっていますので、『人をつくり未来をつくる』本学で、みなさん自身の明るく未来をつくっていくてくれることを願っています」と兼子学長は読者に呼びかけています。



みなとみらいキャンパス高層階にあるプレゼンフィールド



みなとみらいキャンパス外観